

紅葉ばに色見えわかでふる物はものおもふ秋の泪なりけり略○中

これはきさきさにかはりて

ゑるべする雲の舟だになかりせば世をうみなかに誰かとはまし

〔小右記〕治安四年九月十九日甲辰、大床子後御屏風一帖、今日中間爲風被吹顛倒懸御後極不便也、左頭中將公成走出自御裝物所、疊執諸卿云、不可更立、仍持去、件御座屏風、關白所調也。阿闍梨詠圓所書云々

〔基長卿記〕寶永四年二月十五日神泉苑重物、保元平治合戰圖屏風一雙、故法眼筆、人形如動、甚奇物也、變長比、元

寺寶菩提院預之經數、年筆勢妙術又無類、主上内々其筆勢絕妙候間、被聞召及、暫時可有觀覽候由、予爲兄弟之預之間、

内々申遣了、今日從非藏人部屋取寄密々御内義、遣入觀覽、近日可被返却候由仰也、三月八日、

去月十五日令備天覽屏風保元平治合戰、畫工元信筆跡、絕妙無比類、東寺寶菩提院在家藏、是元神

覽入、今日被返下、

〔一話一言十二〕一関ノ屏風ノコト、神泉苑ニ有保元平治戰ノ圖也、真跡ハ古法眼ト云、古右京ト東

寺ノ寶庫ニアル由其圖ヲ雪溪ノ寫也、東福門院御寄附ノ由、畫體能ク人情ヲ盡シタル故ニ、人ノ

物言ガ如シト云、関ノ屏風ト稱スルナラン、

〔本朝畫史上古畫錄〕弘法大師略○中其書冠古今、畫亦造於神妙略○中今高雄山有山水屏風セシイノ

〔菅家文章七〕畫圖屏風、松下道士贊六首讀岐旅館屏風畫也

獨坐 寄身質樸、陶性孤標、合眼而坐、不臣帝堯、

〔康富記〕文安四年十一月廿七日乙卯、今日前局務師卿朝臣來語、三條帥大納言有言付、諸家系圖屏

風、可書給之由被命、件本前局務入道性存之中書本也、此本可渡予之由被示之、明春可書給之由、帥

卿被示之云々、

〔宣胤卿記〕永正十四年十一月廿七日、太平記四十冊、今日一見畢略○中又今所持之屏風和歌并御遊